

# 国会議員に署名を手渡し

## アスベスト 政治的解決めざす

2月18日、首都圏建設アスベスト訴訟統一本部と全国連絡会の共催で、訴訟全面解決のための行動を原告、弁護団、支援組合の仲間280人（東京土建は88人）の参加で行な

「勝ち取ったもの。ただ判決の度に思い出すのはたまたかの半ばで亡くなった原告の仲間のことです。全面的解決と被害者救済のための補償基金制度の一刻も早い創設を求め、皆さんと力を合わせていきたいと思えます」と力強くあいさつしました。



初鹿議員（左）に署名を手渡す松丸本部長（中）と原告の吉田さん（村山大和）



首相官邸前でシュプレヒコールする原告ら

えた建設アスベスト訴訟の解決をめざして」と題して佃俊彦弁護士事務局長が弁護団報告。10度にも渡る国に対する勝訴判決、5度の高裁判決で、X1カー責任が認められたこと、また東京、大阪高裁（京

都ルート、大阪ルート）の3判決で一人親方への国の責任が認められたこと、これらの到達点を確認したうえで、最終的政治的解決をめざすには、原告の要求を支持する世論と政治的力を作り出すことが重要と述べました。

### 首相官邸前で訴える

午後2時から、首相官邸前の宣伝行動を展開。（東京土建の支援者はトヨタ本社前で、大気汚染公害患者の行動に合流）原告、支援組合の役員が次々に官邸に向け訴えを行ない、遺族原告の森川順子さん（江戸川）は「全面的解決するまで声を上げ続けます」と決意表明しました。



発言する早川足立支部書記長（中央）

【足立・書記・早川勝久記】12月19日、1月8日、2日間に渡り足立区助成制度の拡充を求めて各担当課長と意見交換を実施し、組合側から

「現状ある住宅助成制度の課題点を指摘。また、行政からは、「土建さんが要望して実現した節水型トイレ助成制度は、期日を待たずに受け付け終了になった。来年度は制度拡大を検討している」「小規模工事登録制度の拡充については、みなさんが営業にいられた場合に使用される名刺入れを設置します」など前向きな回答を得ることができました。

## 足立 助成拡充求め懇談

### 区側は課長20人が出席

その回答を受けて、職域対策部では、小規模工事登録している組合員一同で発注所管への営業活動回りをすることを決め、組合員の仕事確保に向けた取り組みを着実に進めています。今後、支部では各所管が一同に会した懇談ではなく、組合要望を所管している担当課それぞれに懇談を申し入れて、要求実現に向けて奮闘していきます。

## 大幅賃上げに挑む 春闘集会に550人集結

### 三多摩

2月20日、小金井宮地薬器ホールで三多摩国民春闘共闘会議主催の三多摩国民春闘勝利総決起集会が開催され、550人（東京土建298人）の参加がありました。主催団体の代表委員を務める丸山篤義東京土建本部副委

員長はいさつの中で、「6年に渡るアベノミクスによる実質賃金の低下、格差と貧困の拡大をストップさせる、8時間働けば暮らせる賃金の実現に向けて大幅な賃金引き上げに挑む春闘になる」と訴えました。「最低生計費調査か

ら考える最低賃金」と題した講演では、静岡県立大学短期大学部准教授の中澤秀一さんが、「現在の最低賃金額では普通の暮らしは無理。人間らしい生活には1500円は必要」と、全国一律かつ暮らせる水準の最低賃金の重要性を具体的に分かりやすく説明しました。

東京土建の仲間を含む各団体の訴え、争議団の決意表明の後、集会アピールを決議し、団結カンパウで閉会となりました。

## 今月の主張

### 高齢者を切り捨てるな

1月18日、厚生労働省は2019年度の公的年金の受給額を0.1%引き上げると発表しました。しかし年金生活者の暮らしが楽になるわけではありません。年金給付にあたって、「マクロ経済スライド」が2015年度以来4年ぶりに発動され、「キャリアオーバー」制度も合わせて発動されるため、物価が1%、賃金が0.6%上がったにもかかわらず、年金

給付は来年度だけでも0.9%の実質減額となります。厚生労働省年金局の「平成29年度厚生年金保険・国民年金事業の概要」によれば、国民年金受給者の平均年齢は67.4歳と高齢化が進んでいます。このまま高齢者が切り捨てられ、年金給付が削減されることは、高齢者の生活の質を下げ、社会全体の負担を増やします。また安倍首相は介護保険料について、75歳以上の低所得者の医療保険料を軽減する特例措置を廃止、参院選後には介護保険の要介護1・2の人向けの生活援助の保険給付外しなどの議論を始めます。全世代型社会保障と言いつつ、高齢者の福祉サ

「年金収入が少ない方々を対象に、10月から負担額を3分の2に軽減します。年金生活者の方々に、新たに福祉給付金を年間最大6万円支給し、所得をしっかりと確保してまいります」と述べましたが、10月には、75歳以上の低所得者の医療保険料を軽減する特例措置を廃止、参院選後には介護保険の要介護1・2の人向けの生活援助の保険給付外しなどの議論を始めます。全世代型社会保障と言いつつ、高齢者の福祉サ

## 困り事は組合へ

### バレ・チョコ渡し宣伝



宣伝物を渡す主婦の会の皆さん

「昨年4月から東京土建などで行なってきた新国立競技場現場前宣伝は、2月14日で16回を数えました。「新規入場者教育の開始時間を遅らせろ」「製氷機の元請管理化」等、継続的な宣伝などにより新国立競技場での現場改善がありました。この日は昨年の同日に続き、バレンタイン宣伝と銘打ち、東京や神奈川の主婦の会の皆さんを中心にチョコレートコートや入浴剤とともに現場で困ったことがあったら、組合に相談をするように呼びかけた宣伝物を退場する従事者に配布しながら、訴えを行ないました。マントクを握った小坂剛さん（東京土建常任中央執行委員）は「神奈川の現場でユニホが転倒する事故を目撃した。新国立の現場も工期に追われる中でも、安全第一で仕事をしてくださる」と呼びかけました。笑顔で宣伝物を受け取る者がほとんどでしたが、「（現場は）改善されていない」とつぶやき従事者もいました。